

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集・索引
Nissan Ambition 2030	CEOメッセージ	CSOメッセージ	取締役会議長メッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車によるアライアンス	日産のサステナビリティ

## ルノー・日産自動車・三菱自動車によるアライアンス



### RENAULT NISSAN MITSUBISHI

ルノー・日産自動車・三菱自動車は世界の自動車業界をリードするアライアンスのひとつです。新たな協力的ビジネスモデルを通して、メンバー各社の強みを生かし、互いの戦略を補完し合うことで、競争力と収益性を高めることを目指してまいります。

事業を取り巻く環境は大きく変化しています。それらに対応するため、日産は電動化を含む、カーボンニュートラル実現のための技術力や、今後より一層重要となる、ソフトウェアやサービスの開発力を磨いていく必要があります。

日産は電動化や自動運転技術においては長年の経験を持っていますが、他社との大きな違いのひとつとして挙げられるのは、ルノー、三菱自動車とのアライアンスにあります。そこでは、20年以上にわたって、資産や基準、プロセスを共通化してきました。このアライアンスの経験は、他社にはない強みとして、日産の成長と発展を支えてきました。

2020年、アライアンスは「リーダーとフォロワー」という新たな枠組みを採用して、主要技術、新領域での機会創出や共有アセットの開発を推進しています。この仕組みでは、主要な各技術は、ひとつのチームが開発をリードして、フォロワーのチームがそれを支援することになります。このようにして、アライアンスのメンバー各会社はすべての主要なテクノロジーにアクセスすることができます。

それ以来、メンバー各社は共通化の戦略を拡大して、商品や技術開発の効率化を進めています。競争力を強化して規模の経済性を拡大するため、アライアンスとしての標準化を推進します。日産においても、ルノー、三菱自動車と長年培ってきた信頼関係があるからこそ緊密に連携することができ日産の長期ビジョンを実現するための大きな力にもなります。

アライアンスは強固な基盤とともに効率的なオペレーショナル・ガバナンスに支えられ、シナジーが期待できる分野において協力して進めるさまざまなプロジェクトを決めています。



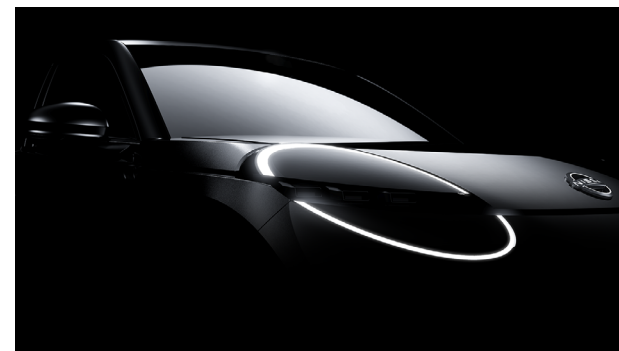
目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集・索引
Nissan Ambition 2030	CEOメッセージ	CSOメッセージ	取締役会議長メッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車による アライアンス	日産のサステナビリティ

ルノー・日産自動車・三菱自動車アライアンスは、2030年に向けてともに未来を切り拓くため、モビリティのバリューチェーンに焦点を当てた共通のプロジェクトと実行計画を2022年1月に発表しました。

2030年に向けたEVとインテリジェント・コネクテッド・モビリティ、そして投資の分担に関する共通ロードマップに基づき、メンバー各社はこれからもそれぞれのお客さまへより高い価値を提供します。また、2030年までに5つのEV専用共通プラットフォームをベースにした35車種の新型EVを投入していきます。

ロードマップの主要なポイントとして、プラットフォーム、工場、パワートレイン、車両セグメントなど、プーリングが可能か要素を考慮して、各車種に相応しいレベルの共通性を定義する手法が含まれています。加えて、デザインとアッパーボディの差異レベルも厳格に定められます。またメンバー各社は、EV用バッテリー技術に関するロードマップ、共通のサプライヤー選定、および電気・電子アーキテクチャに関する共通ビジョンも策定しました。

この発表の中で日産は、CMF-BEVプラットフォームをベースとし、フランス北部のルノー・エレクトリシティでの生産を予定している、欧州で販売するマイクラの後継となる新型EVを発表しました。また全固体電池の技術開発については日産がリードしていきます。



アライアンスの戦略的な取り組みは、今後もメンバー各社の持つ専門性を最大限に発揮させることを通して、各社の競争力と持続的な収益性および社会と環境に対して果たすべき責任の強化につながります。

アライアンスの取り組みは、2030年まで過去に見られない飛躍的な勢いで拡大することになります。



2022年5月、日産にてアライアンスおよびメンバー各社のリーダーが集まり、日産と三菱自動車の主なリーダー層とのタウンホールミーティングを実施